

Event Schedule

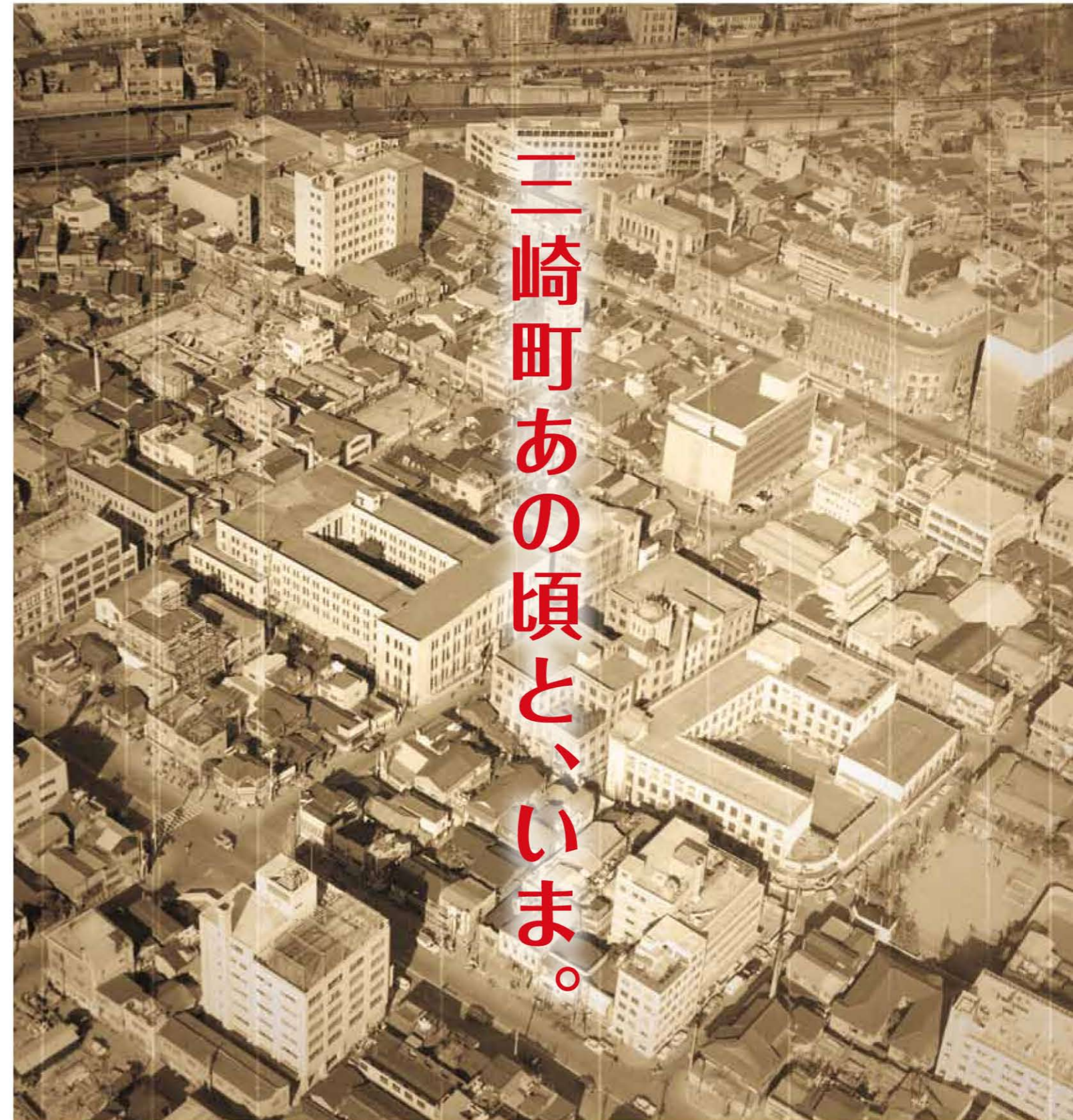
1 January	1月9日(水)	冬季休業終了
	1月10日(木)	授業開始
	1月10日(木)・11日(金)	4年次生成績表交付・再試験手続き[教] ^{※1}
	1月12日(土)	平成24年度法学部資格試験等合格者褒賞授与式[工]
	1月17日(木)	平成24年度第2回公認サークル連絡会[学]
	1月18日(金)	準公認サークル・新規登録サークル説明会[学]
	1月21日(月)	後学期授業終了(1~3年次生)[教] 日本学生支援機構奨学金継続願手続期限[学]
	1月22日(火)~2月4日(月)	学年末試験(1~3年次生)／卒業追・再試験(4年次生)[教]
	1月31日(木)	ゼミナール論文提出締切日[教] ^{※2}
	2 February	2月5日(火)~15日(金)
2月8日(金)		学年末(含む卒業追・再)試験予備日[教]
2月9日(土)		定期無料法律相談会[研]
2月13日(水)		合同企業研究会・就職セミナー(全学部合同)[就]
2月20日(水)~26日(火)		内定学生による就職相談会[就]
2月21日(木)~27日(水)		追試験(1~3年次生)[教]
2月21日(木)		第2回グループディスカッション講座[就]
2月27日(水)~3月13日(水)		第42回ヨーロッパ研修旅行(第1班)[学]
2月28日(木)~3月14日(木)		第42回ヨーロッパ研修旅行(第2班)[学]
3 March		3月7日(木)
	3月16日(土)	定期無料法律相談会[研]
	3月25日(月)	日本大学卒業式・学位記伝達式・卒業記念祝賀会

〈学位記伝達式の終了後、卒業記念祝賀会をホテルグランドパレスにて盛大に行います。(事前申込制) 伝達式とはまた違うリラックスした雰囲気の中、学生生活最後の締めくくりとして御参加ください。〉

※1 卒業試験の成績表を教務課窓口にて交付します。併せて再試験の申込みを受付けます。
※2 第一部17:00まで。第二部19:00まで。提出期限を過ぎたものは、理由の如何を問わず受理しません。

各項目についての不明点等は、各担当部署にお問い合わせください。また、略字は次の通り。
[教]教務課 [学]学生課 [研]研究事務課 [工]エクステンションセンター [就]就職指導課
※日時や詳細が決まり次第、掲示板およびホームページにてお知らせします。

日本大学法学部 Journal Vol.8



昭和38年頃、三崎町周辺の航空写真。



www.law.nihon-u.ac.jp/ 詳細情報は、随時掲示板およびホームページを見て確認してください。

日本大学法学部
Journal Vol.8 2013年1月31日発行 日本大学法学部広報 通巻116号 発行:日本大学法学部企画・広報委員会

日本大学法学部の あの頃と、いま。

三崎町の校舎フォトギャラリー

1896(明治29)年に日本法律学校の初の独立校舎が三崎町に竣工してから今年で117年。
明治から平成までの、法学部の代表的な建物を写真と、当時を知る人のコメントでたどります。

明治



日本法律学校校舎(明治30年代)

三崎町に初の校舎

1889(明治22)年に日本法律学校として創設されてから7年後、1896(明治29)年に初の独立校舎が三崎町に竣工。当初は平屋建てだったが数度の増改築を経て、1902(明治35)年に2階建ての校舎に。1920(大正9)年には大学令による大学昇格に合わせて立派な三崎町校舎が竣工したが、1923(大正12)年の関東大震災で倒壊・全焼。わずか3年間しか使用されなかった。

大正



大正9年に建築された三崎町校舎

昭和
~平成



旧図書館と旧本部棟(昭和10年完成)

町のシンボル旧図書館

1935(昭和10)年に建築された旧図書館は重厚で印象的な建築。日本大学法人本部と総合図書館として利用されていた。「本部の地下がレスリングなどの道場になっていて、道着の汗の臭いがすごかった!」という、当時隣接していた西神田小学校の卒業生たちの記憶も(P3-4座談会より)。2004(平成16)年に現在の法学部図書館落成。

現在



現在の図書館

昭和

中庭とアーチの校舎

1927(昭和2)年に落成した、旧法学部本館。1968(昭和43)年に現在の法学部本館が落成するまで長きにわたり、学内外の講義や討論会などの舞台となった。「三崎町の町会創立十周年記念総会を、法学部講堂で開きました」と現町会長さんは証言する(P3-4座談会より)。向かいの桜門ビルには通信教育部などが入っていた。



旧法学部本館と中庭(戦後)



アーチが印象的な建築(戦後)



旧法学部本館と桜門ビル(戦後)

現在



現在の法学部本館から同方向を眺める

昭和
~平成



旧法学部2号館



現在の2号館

新旧の2号館

6階建てだった旧2号館は、大学院、司法科の講義室や自習室などとして使用された。1998(平成10)年に現在の9階建てに建て替えられ、法学研究科の自習室などとして使用されている。

※資料提供:日本大学広報部大学史編集課

【座談会：神田三崎町町会の皆さんと語る】

変わらない人情の町、三崎町。

キャンパスのない日本大学法学部は、校舎を一步出れば飲食店あり、神社や教会あり、日本を代表する古書店街あり。いわば町全体がキャンパスというロケーションにあります。その三崎町に生まれ、いずれも西神田小学校のご卒業という神田三崎町町会のお三方と、日本大学 黒川貢三郎名誉教授が、三崎町の今昔を語り合いました。

スペシャルオブザーバー



2012年度ミスコン男子
加藤 優太さん 経営法学科2年



2012年度ミスコン女子
板橋 美奈さん 新聞学科1年



左から神田三崎町会の萩原さん、古沢さん、高澤さん。右端は黒川名誉教授。

労働者でにぎわった昭和30年代

黒川教授 本日は皆さん、お忙しいところお越しいただきありがとうございます。普段は学生が大変なご迷惑をおかけしております、道幅いっぱい広がって歩くなどですね、まずはお詫び申し上げます。私は昭和33年にこの日本大学法学部に入学いたしました、1年生の時はいま文理学部のある世田谷校舎にいましたが、2年の時にこちらへ。卒業後1年だけ新聞社勤務をしましたが、それ以来ずっとこの三崎町にお世話になっております。かれこれ50年になります。

萩原さん 私は三崎町で魚屋をやっております。三崎町で生まれ育って、三崎町しか知らない。昭和16年の生まれですから黒川先生の少しだけ後輩ですか。先生が大学に通われていた昭和30年代、いまの10号館のところにはお風呂屋さんがありましてね、三崎町が一番にぎわっていた時代ではないでしょうか。この界隈はご存知の通り製本屋さんが多く、職人や工具たちはみな住み込みの時代だったんですね。

黒川教授 ええ、ええ、そうでした。銭湯に入ってから焼鳥屋へ寄って一杯ね(笑)。わたしも教員になってからはよく通いました。

古沢さん 私は昭和27年の生まれです。西神田小学校を出て、大学は一応日本大学ですが、残念ながら経済学部です(笑)。三崎町三丁目に住んで製本業を営んでいました。いまは印刷会社が製本まで一貫して全部やっていますけれど、当時は分業でした。

折るだけのところ、束ねるだけのところ、断つだけのところ、と。本ができるまでの工程が細かく分かれていて、ずらっと軒を連ねていました。

黒川教授 ああ、そうでしたね。活版印刷の活字をつくる母型屋さんもたくさんありました。印刷

したもの大八車に乗せて通りをかけていく姿は活気がありましたね。

高澤さん 私は昭和30年の生まれで、三崎町に57年間住んでおります。家業は塗装業で、先ほど少しお話に出ましたように、当時は住み込みの職人さんもいました。現在は千代田区議会議員をやっております、塗装業の方は細々と(笑)。

黒川教授 実は私の専門分野が明治時代の社会主義の研究なのですが、三崎町というのは日本の労働運動の発祥の地、という風に言われています。ちょうど今、東京歯科大学の新しい建物ができている辺りに「労働組合期成会」の本部がありまして、法学部の本館の真ん中あたりには、日本の労働運動の指導者だった片山潜の家がありました。いま皆さんの自己紹介をお聞きしながら、何やら感慨深く思っていたところです。

道場から漂う汗臭さがすごかった！

高澤さん しかし何といっても一番記憶に残っているのは、西神田小学校の隣にあった本部(現在の図書館)の周りを通ると汗臭かったことです。ものすごい(笑)。地下がレスリングなどの道場になっていて、塀のところに練習着が干してあって。子ども心に、汗ってこんなに臭うのかなと思ってました。でも、臭いんですけど、興味があるんですね。よく塀を乗り越えて本部の中へ入っては怒られていました。

古沢さん 本館の横に空手の板があったのを、なんとなく覚えています。血のあとがついていてね(笑)。とにかく強面の人ばかりだった記憶があります。

*町の方たちに「本部」と呼ばれていた建物は、旧図書館と日本部が一体になった建物でした(P01写真)。



黒川 貢三郎 名誉教授
1962年日本大学法学部新聞学科卒業。
2009年定年まで日本大学法学部教授を務め、現在非常勤講師。専攻は日本政治史、日本新聞史。

萩原さん 思い出があるのは、小学校4年生か5年生の時に西神田小学校にプールができて、そのプール開きに来てくださったのが当時日大の学生さんだった古橋さんと橋爪さん(注:世界的に活躍した水泳選手の古橋廣之進、橋爪四郎)。古橋さんは「フジヤマのトビウオ」って名前をよく聞いていたから、すごい人が来てくれたんだなと思って印象に残っています。今思えば、小学校の浅いプールで泳いでくれたんだね。

黒川教授 卓球部もありました。世界チャンピオンになった荻村伊智朗さんもあそこから出たんですよ。私は運動部ではありませんが、仲間が応援団とか柔道部とか、格闘技系が多かったです。運動部に限らず、昔の学生は覇気があったように感じますね。

高澤さん 今はその本部があったところが、きれいな図書館になっていて道場の面影はなく、汗の臭いがしたことなど信じられないくらいです。

古沢さん あの横はたしかお煎餅屋さんだった。

法学部本館の中庭で町会の10周年総会



萩原 尚弘さん
1941年神田三崎町生まれ。水道橋駅南で大正時代からつく魚屋「魚美津」の三代目ご主人。神田三崎町会、町会長。

萩原さん 座談会の参考になるかなと思って、『三崎町会月報』をもってきました。昭和40年4月号に「町会(当時は三崎町二丁目町会)の創立十周年記念総会を、日本大学講堂で開く」という記事が載っています。私はまだ青年部でしたが、法学部本館に中庭があって(P02写真)、その正面にある講堂をお借りしての盛大な会だったことを覚えています。

黒川教授 この当時は「三崎町二丁目会」だったのです。しかし、この月報は立派なものです。毎月発行されて、合本にされ...

高澤さん 古沢さんが三崎町から引っ越されたあとも広報部長として、ずっと編集してくださっています。

萩原さん 古沢さんは5代目の広報部長。最初の頃はガリ版でした。町名の話の少しいたしますと、現在、白山通りと日本橋川にはさまれた地域が三崎町会(三崎町二丁目・三崎町三丁目)ですが、昭和42年(1967)の住居表示以前は、「神田」がついていました。いまもう一度、神田三崎町という町名に戻そうという動きがあります。

黒川教授 私の母親は富士見町出身ですが、私が日本大学法学部へ務めたっていうと、「ああ、神田三崎町ね」と。ですから、ある年齢以上の方はみなさん神田三崎町。ぜひ、戻すべきだと私も思います。

萩原さん 現在まで欠かさず発行し続けている月報が、一度だけ合併号になったことがあります。昭和43年の日大紛争の時です。あれは町会として大きな出来事でした。

高澤さん 私は小学校が早く終わるといのでけっこう嬉しかった(笑)。近所のビルの屋上からデモ行進を見ていました。

古沢さん あの紛争のあとに、道路の敷石が見事になくなりましたね。学生が敷石を割って機動隊に投げるっていうんで。

黒川教授 本当に町会の方にはご迷惑をおかけしました。この月報にも学長がお詫び状を書いています...



三崎町会月報(当時、三崎二丁目)昭和40年4月20日号には、「町会創立十周年を記念して、日本大学講堂にて行われた盛大な総会」の様子が写真入りで掲載されています。

【座談会：神田三崎町会の皆さんと語る】

変わらない人情の町、三崎町。

喫茶店、雀荘がなくなった学生街

萩原さん 学生街という雀荘がつきものだったけど、この辺りもずいぶん多かったですよね。いつからか、すっかりなくなりました。

黒川教授 遊ぶ、という麻雀だったですね。近くにある「南々荘」など、よく行きました。そういうところで知らず知らずのうちに社会や大人と接していたように思います。

高澤さん 私なども出席を取る語学の授業以外はよさぼって雀荘に入り浸っていた口ですが、いつ頃からか学生さんが雀荘に行かなくなりましたね。どうしてなのでしょう。



古沢さん この辺りは出版社の編集者なども多くて、あちこち雀荘だらけでした。いまは麻雀をうてる人を4人集められない。ゲームの方が面白いのかもしれない。

萩原さん 趣味が多様化しているというのもあるでしょう。雀荘と同じく、喫茶店もなくなりましたね。チェーン店のカフェではなくて、昔ながらの喫茶店。どこも学生さんがたむろしていたけれど、そういう光景はまず見なくなりました。

黒川教授 学生はあまり喫茶店へ行かないんですよ。チェーン店のコーヒー店へ行って、カップで買ってきてベンチで飲んだりしていますね。先日、白山通りの「白十字」へ行ったら、「もううちだけになっちゃいました」と。あの近所には「セントルイス」「ケルン」「エリカ」・・・

高澤さん 「エリカ」は通りを渡ったところにもう1軒あって、そこは今もやっています。あとは「さぼうる」ですか、2軒くらいです。

町と大学が融け合うために

黒川教授 こうしてみると、「町がキャンパス」とはいいながら、学生と町の人が触れ合う機会が減っているように思われます。

萩原さん 私はね、大きなことじゃなくても、ちょっとしたことでつながっていくというか、縁をつくっていくというか。そういう取り組みが続いていけばいいなと思っています。



古沢良和さん
1952年神田三崎町生まれ。日本大学経済学部を卒業後、三崎町で製本業を営む。神田三崎町会、広報部長として「月報」を編集。

たとえば、2、3年前だったか、日大法学部に「エコサークルNeco」というのができて、大学で傘の無料貸し出しをするから町会に協力してほしいという話がありまして。町会でビニール傘を集めて提供したことがありました。それ自体は大きなことじゃないけれど、それが縁でその学生さんに児童館で子どもたちと一緒にエコの勉強会をしてもらったり。ちょっとした縁ができていたけれど、残念なのは、その学生さんが卒業しちゃって代が替わると、

途切れちゃうんですね。もうひとつは、今年の三崎神社のお祭りに、法学部の職員さんが半纏をつくって参加していただきました。今回は学生さんではなく職員さんが試しに、ということですが、こうして縁ができれば、いつか学生さんが祭りに参加して、ということも実現するんじゃないかと思えます。

高澤さん 今年は久しぶりに法学部の大学祭が金曜日になりましたよね。あれはいいなと思いました。あちこち許可を取るの大変だったかもしれませんが、土曜日、日曜日じゃ、この辺りはお休みで見物人も少ないと思います。そういえば、私たちが子どもの頃は、大学祭という近所の子もたちがみんな行って、大学生のお兄さん、お姉さんに遊んでもらったものです。ゴルフのようなゲーム遊びをやらせてもらって、楽しかった記憶があります。いまは町内に子どもがほとんどいないので、そうした触れ合いも難しいですね。

黒川教授 先ほど三崎神社のお祭りの話がでしたが、思い切って大学祭を神社のお祭りにぶつける、なんてことも考えてもいいのではないかと個人的には思います。もうひとつは、大学の施設を町の方に、使えるところは使っていただくということです。3号館裏の敷地をラジオ体操に使っていただいています。それ以外にも、法学部の図書館をぜひ地域の皆さんに自由に使っていただけるようにできないのか。図書館のラウンジコーナーでご近所のおじさんが新聞を読んでいる横で、学生が新聞を読んでいるという・・・

古沢さん いい光景ですね。

萩原さん 警備の問題など難しい部分もあると思うけれども、そうなったら嬉しいですね。

困っている人を放っておかない町

黒川教授 最後に、三崎町に長く住まれている皆さんから、町の魅力をお聞かせいただけませんか。

萩原さん 町の人たちは皆、仲良しですね。月報に毎月の行事を載せていますけれど、諸行事を大切にしていますし、オブザーバーの方たちも応援してくださっています。



高澤さん 仲が良すぎてムラ社会みたいなのがなきにしもあらず…(笑)。それくらい皆さん、仲がいいですね。ただ、来るものを拒むわけではないですし、大学さんに対してアプローチがあれば、はい！とお応えするんですけど、あえてこちらから広げていかないというところはあります。町の中の人口が減ってきていますから、そこは課題だと思いますけれど。



高澤秀行さん
1955年神田三崎町生まれ。2007年より千代田区議会議員として教育、福祉、地域活性化に力を入れる。神田三崎町会、常任相談役。

萩原さん 土地が高いから家族で住んでいる人は少なく、単身の人はほとんど寝るだけだから町会にも入らない。万が一の時の防災とか、ゴミ収集とか、町をきれいにするとか、いろいろメリットを説明して町会に入ってもらうように働きかけてはいるんですけどね。一緒にこの町に住んでいるんだから、何かあった時に、悪いことだけじゃなくて、いいこともね、参加してもらえればありがたい。お祭りでも縁日でも、町会に入っていれば出てきやすいでしょ。

古沢さん この町の魅力は、下町の気質というか、絆。どう世の中の姿形が変わろうとも、これは変わらないものだと思います。黒川先生から、法学部の学生さんが昔と違って大人しいという話がでましたが、もっと「やんちゃ」になって欲しいと思いますね。「こら、何やってんだ！」と、町会の大人が学生を叱るくらいに。そうやって接してくれる下町気質の大人が、まだこの町には残っているということです。この地域性は私たちの自負心です。

高澤さん 昔ながらの人情っていうんですね。知らない方でも何かあったら、大丈夫ですか？と声をかける。おせっかいなおじさんや、おばさんが多い町です。学生さんが夜中に騒いでいたりすれば、「うるせえー」なんて言いますけれど(笑)、ただ、困っている人を放ってはおかないと思います。



黒川教授 このような温かい町がキャンパスである我々は幸せだと思います。学生は意識していないかもしれませんが、この町を利用しているんですよね。町の皆さんが掃除してくださったきれいな町を歩き、町会



三崎町月報、昭和51年3月20日号の挿絵「キャンパスまっぴゅ」。若者たちの70年代ファッションにも注目。

の方のお店を利用しと。塀で囲まれていない大学であることを逆手にとって、我々大学の方も町に対して提供できるもの、たとえば無料法律相談をやっていますが、さらに行政相談や図書館の開放など、積極的にお返ししていくべきだろうと思います。両者をもっと融け合えるように、今後ともよろしく願っています。本日はありがとうございました。



2012年12月 法学部に於いて

大先輩と町の方の座談会を聞いて

2012年度ミスコン男子
加藤 優太さん 経営法学科2年

座談会を聞いて、三崎町は歴史深い所なのだと改めて実感しました。ずっと水泳をやっていたので、古橋さんのお名前を聞いて親近感がわきました。ただ、私が現役当時の古橋さんは日本水泳連盟の会長さん。古橋さんの名前が記されているJOC大会の賞状は今でも大切に保管しています。現代の三崎町のイメージは、古本の町、そして食の町。『すた井』『井達』は男子学生のお気に入りスポットです。洋服のセレクトショップも三崎町らしさを醸し出しています。フェニックスコンテスト出場はぎりぎりまで悩みましたが、振り返ると大きな挑戦であり、出場して本当によかったと思います。



2012年度ミスコン女子
板橋 美奈さん 新聞学科1年

同じ場所でも、何年か経つと全然違う風景になっているのだなと思いました。学生と町の人との関わりは、今はあまりないので、法桜祭を通して関わるきっかけを作りたいと思いました。図書館を地域の皆さんが使えるようにできないか、という話題がありましたが、そうならばより素敵な場所になると思います。せっかく三崎町という温かい町にキャンパスがあるので、日頃からもっと関わりを持てば、何かあったときにもお互いに助け合うことができると思います。フェニックスコンテストに向けて、みんなでひとつのことを作り上げていく楽しさがありました。多くの人の支えに感謝しています。



【インタビュー：法学部に学んだ教職員に聞く】

私の学生時代と法学部界限、思い出写真館。

学生時代を法学部のある三崎町で過ごし、いま教職員として務めるOB・OGの中から、それぞれの世代を代表して4名に、学内外の思い出スポットを語っていただきました。

法学部 法律学科 1994年卒業

矢田 尚子 准教授

仲間と“たむろ”する場所がキャンパスでした

1994(平成6)年に卒業してから、昨年4月に専任として久しぶりに法学部に戻ってきました。一番変わったなと思ったのは、図書館です。石造りで重厚な建物だったのが、ガラス張りで全然印象が違う建物になっていて、古い建築が好きな私としては、キレイになりすぎたようで少し寂しい気がしました。

女子学生が多くなっているのにも驚きました。当時はクラス60人くらいの中で女子は5人程。私は法職課程だったのですが、4クラス合わせても20人くらいしかいませんでした。女子トイレも少なかつたですし、大学近辺のお店も、女子だけで入りやすいお店や女子が好きなメニューのお店は少なかつたですね。当時できたばかりの「吉野家」や回転寿司店などは、男子に連れて行ってもらった思い出があります。女子だけの時には「カフェらいいん」へよく行きました。



授業の合同によく散歩した公園(小石川後楽園)。「春は桜がきれい。気分転換になるので、学生にもおすすめです」

野球サークルのマネージャーをやっていたので、サークルの仲間と一緒に行動することが多かつたです。本館地下や3号館地下の学食へ行けば必ずサークルの誰かがいて、試験問題なども先輩から情報をもらったりしていました。キャンパスがない分、狭いところとにかく“たむろ”していた。どこか特定の場所というより、みんなで居た場所がキャンパスだった気がします。

■界限の思い出スポット

公園(小石川後楽園)、お惣菜パンが美味しかった近所のパン屋さん、アルバイトをしていたLEC・ゼンリン、東京ドームの外野席

1990年代

- 大学入試センター試験開始(1990)
- スーパーファミコン発売(1990)
- Jリーグ開幕(1993)
- Windows95発売(1995)
- 消費税5%に増税(1997)



きた・よしと / 法学部法律学科を卒業後、日本大学大学院 法学研究科 博士後期課程単位取得退学。非常勤講師を経て、2005年より現職。専門は国際法。日本による戦時国際法の適用を研究テーマとする。

法学部 法律学科 1981年卒業

喜多 義人 准教授

そこへ行けば必ず誰かに会えた「学食」

1977(昭和52)年入学、81(昭和56)年卒業です。1年生の時は静岡県の三島校舎でしたが、2年生から現在まで、35年間この三崎町校舎で過ごしていることになります。

思い出深いのは、実は本館地下の学食です。当時はコンビニがありませんし、外の食堂に行くには経済的にキツイ。確か普通のカレーが130円、カツカレーが180円でした。カレーが好きなんです(笑)。いまも二部の講義もっていますので、ときどき利用します。ただ、学食を利用していたのは、そこへ行けば三島時代のクラスメイトに必ず会えたから。早く講義が終わったものが席を確保し、そこに集合する。私は和歌山出身ですが、北海道から大分までの出身者がいて、ずっと仲良く一緒に行動していました。

現在は休会中ですが「阪神野球理論研究会 桜虎会(おうこかい)」というサークルを、私たちの時代に阪神タイガースファンが集まって創設しました。長谷川勉先生という、大の阪神ファンがいらっやっやって、先生の研究室に荷物を置かせてもらって。シーズン中は後楽園や神宮へ行き、球団旗を振り、そろいのハッピーを着て応援し盛り上がりましたが、80年代の後半以降低迷が続くと自然に学生も集まらなくなりました。また強くなればサークルも復活するかもしれませんね。



毎日のように利用した本館地下の学食(現在は工事中のため閉鎖)。「夕方頃に行くと、カレーのご飯を量産してくれることもあり(笑)」

■界限の思い出スポット

本館地下の学食、旧図書館、後楽園球場の外野席、白山通り沿いの古本屋さん、サークルの会合に使った喫茶店「ルノアール」

1970年代

- ビートルズ解散(1970)
- マクドナルド日本1号店が銀座に(1971)
- あさま山荘事件(1972)
- オイルショック(1973)
- 新東京国際空港(現成田国際空港)開港(1978)

法学部 法律学科 1990年卒業

中村 光宏 さん 庶務課

携帯のない時代、壁の「連絡ノート」が頼り

学生生活を送った1986(昭和61)年から90(平成2)年は、ちょうどバブル景気の時期と重なります。学生の身ではあまり実感はありませんでしたが、確かに就職の内定が取りやすい時代でした。民法の石川利夫ゼミに入って、先生の、普段は優しい方なのにゼミになると怖いくらい厳しい指導を受けながら、卒論を一生懸命に仕上げました。運輸省の外郭団体の図書館や国会図書館などへも資料を探しに行きましたね。嬉しかったのは、その卒論が「ゼミ誌」に掲載されたこと。それが一番の思い出です。

ゼミやスキーサークル(リプルズ)の仲間とは、まず本館ホールに集まり、それから近所の居酒屋へ繰り出しました。ちょうどアサヒ・スーパードライが出た頃で(注:1987年販売開始)、それがあるお店を選んで。まだ携帯がない時代なので、壁にぶら下げた「連絡ノート」に、どこそこの居酒屋にいます…と(笑)。学祭の時にクレープを焼いて近隣の人に売り歩いたこともあります。皆さん、買ってくださいましたよ。いまは保健所の指導でそういうこともできませんが…。



名物講師による名物講義を聴いた3号館350教室。「2階席の上の方に座るとパノラマの視界が広がり、どの席からも黒板が見やすかつた」

ただ、私たちの時代と比べて、学生をフォローする環境は整っています。エクステンションセンター、図書館しかり、窓口でも多くの情報が得られます。ぜひ積極的に利用してほしいですね。

■界限の思い出スポット

居酒屋(「庄屋」など)、近隣の図書館、たむろできる喫茶店(「白と黒」「青い鳥」)、揚げ物が美味しかった「キッチンジロー」

1980年代

- 東京ディズニーランド開園(1983)
- Macintosh発売(1984)
- 国鉄民営化・JRグループへ(1987)
- 東京ドーム完成(1988)
- 日経株価が史上最高値38,915円に(1989)

法学部 法律学科 1966年卒業

伊藤 文夫 教授

寮に入り深夜まで勉強、銭湯とバーが楽しみ

1962(昭和37)年に入学し、66(昭和41)年に卒業後もしばらく大学にいたけれど、ちょうどその頃に大学闘争が始まり、学生側にやや同情的な言動をしたりして大学側からにらまれちゃった(笑)。法政大学、早稲田大学、昭和大学医学部などの講師をして、2006年に法学部へ戻ってきました。

学生当時、本館のそばに寮がありました。看板もでていなかったで、一部の人が知らなかつたと思いますが、特待生かそれに準じる成績といった条件があり、収容人数30名程に対して入寮者は10名前後。OBは裁判官など法律職か大学教授になっています。寮とは別に特別研究室に専用の机が与えられていて、夜11時まで勉強していました。近所の定食屋で晩ご飯を食べ、「梅の湯」へ行って寮に帰るのは12時前後。それから水道橋にあったバー「橋(ブリッジ)」に行くと、マスターがお客さんが残したおつまみを取っておいてくれて、お酒もほとんどタダ同然で出してくれた。カウンター越しにマスターやママと話すのも、いま思えば社会勉強だったね。

先日、日曜日に研究室で勉強していたら、ピーヒャラどんと音がするので降りていたら、三崎神社の祭に法学部の事務員がハッピーを着て参加していた。こういう自然なつながりがいいと思います。



深夜に通った銭湯「梅の湯」。「何十年ぶりで行ってみたら様変わりしていて、入り口に、ジョギングの方は泥を落とすからお上がください、なんて書いてある(笑)」

■界限の思い出スポット

本館向かいにあった文房具屋さん、銭湯「梅の湯」、バー「橋」、界限の定食屋さん、道路交通法に違反してキャッチボールをした路店

いとう・ふみお / 法学部法律学科を卒業後、法政大学・早稲田大学・昭和大学医学部・千葉大学などの講師、損害保険料率算出機構管理部長、特別職を経て、2006年より現職。損害賠償と保険を主たる研究テーマとする。

都心で学ぶから好奇心が充電される!

日本大学キャンパスシティ見聞録

いつも通り慣れている三崎町界隈から、ほんの少し足を伸ばしてみると
ちょっとした歴史探訪ができたり、僕らの好奇心を刺激するショップの数々から、
美味しいお店まで揃っているのが、社会に開かれた日本大学法学部の魅力。



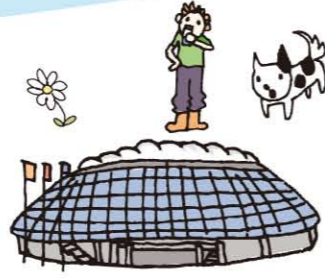
① 小石川後楽園

水戸黄門様ゆかりの小石川後楽園は、江戸の中屋敷の庭として造られた庭園で、中国の教え「天下の憂いに先立ちて憂え、天下の楽しみに後れて楽しむ」から「後楽園」と名付けられ、今日でも美しい深山幽谷な別世界が広がっています。



② 東京ドームシティ

東京ドームや遊園地等が建ち並び一日中楽しめるアミューズメントな地区。よく比較に登場する東京ドームの大きさを実感しておもしろいかも…。



5代将軍徳川綱吉

③ 湯島聖堂

5代将軍徳川綱吉によって建てられた学問所です。「日本の学校教育発祥の地」として、合格祈願にたくさんの受験生が訪れています。



④ 神田神社

もしかすると神田明神(かんだみょうじん)と呼んだ方がピンと来るかも。時代劇でもお馴染みの「明神様」とは、神田神社が正式名称なのです。



飯田橋駅



⑥ 出版社

三崎町から神保町界隈には古本屋さんも多いのですが、書籍を創り出している出版関係の会社も多いエリアで、活字文化の街だったりもします。

日本大学法学部

NIHON UNIVERSITY
COLLEGE OF LAW

⑤ 東京大神宮

都内パワースポットのひとつ。恋愛成就や女性誌などで話題になっている神前結婚式創始の縁結びにご利益のある神社です。



恋愛祈願のお守りが大人気!



⑦ 三崎稲荷神社

江戸時代に参勤交代で登城する前に諸国の大名が立ち寄り、お清めをすることを恒例としていたために「清めの稲荷」と称されていたようです。



⑨ カトリック 神田教会

キリシタン禁教の解禁後最初に建てられた教会です。聖フランシスコ・ザビエルに捧げられた聖堂でもあります。



神保町駅

外堀通り

神田川

御茶ノ水駅

⑩ ニコライ堂

日本最大のビザンチン様式の美しい建物で、正式名称は東京復活大聖堂といいます。我が国に正教会の教えをもたらした聖ニコライにより、1891年(明治24年)に建てられました。

⑪ 神田神保町古書店街

神保町の交差点を中心に広がる約160店舗が立ち並び世界でも稀な古本屋街。古書だけでなく大型の本屋さんも立ち並び、学生には有難い界隈でもあります。



⑫ 秋葉原電気街

言わずと知れた世界の秋葉原電気街。家電ウォッシングだけでも一日が過ぎる!昭和30年代は家電の小売店が中心でしたが、現在は大型店が建ち並び賑やかな界隈です。



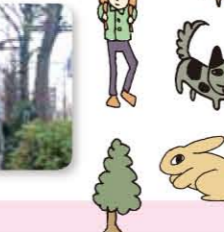
⑬ さほうる

神保町駅の裏通りにある昭和30年創業の老舗喫茶店がここです。印象的なトーマスポールがお出迎えしてくれる。こだわりのネルドリップのコーヒーや軽食もいただけます。



⑭ お茶の水楽器店街

エレキギターやアコースティックギターを扱うお店がたくさんあるのが、お茶の水駅から神保町へ下る坂道。中にはオリジナルのギターの弦を販売する老舗楽器店もあります。



⑮ スポーツ用品店

スキーやスノーボード、野球球にゴルフ、今流行の山ガールたちも御用達のスポーツ用品店が目白押し。スポーツ用品が必要なときは、この界隈へ走れ!

九段下駅



⑬ 日本武道館

日本武道館は、1964年に開催された東京オリンピックの会場のひとつでした。我が国の伝統的な武道を普及するために建設され、大屋根の積線は富士山をイメージしているそうです。

⑭ 岩波書店・岩波ホール

古典や学術研究の成果を社会に普及させることに貢献してきた出版社。岩波ホールは、1974年から世界の埋もれた名作映画を上映するミニシアターの元祖的存在でもあります。



三崎町界隈の 美味しいお話

学生街には美味しくボリューム満点なお店が揃っている。これは今も昔も変わらないお話のようで、法学部の周りにも美味しいグルメスポットがたくさんあります。

01 どこか懐かしい店構えのカレー屋さん ライスカレー まんてん

神保町というカレーと言うぐらいに数あるカレー屋さんの中でも、ずっしりと盛られたご飯の上に、トンカツやコロッケ、シューマイなどのトッピングも充実。ひき肉の入ったカレーがたっぷりかかったボリューム満点なカレーです。

電話 03-3291-3274
住所 神田神保町1-54
定休日 日・祝
営業 [月~金]11:00~20:00
[土]11:00~16:00



02 白木のカウンターが清々しい天ぶら屋さん いもや

この界隈に古くからある天ぶらの専門店。僕らの親世代もご存知のお店です。揚げたてサクサクの天ぶらを白木のカウンターでいただけます。もちろん学生にも優しいコストパフォーマンスの高い天ぶらです。

電話 03-3265-0921
住所 神田神保町2-16
定休日 日・祝
営業 [月~土]11:00~20:00



03 わが街の洋食屋さん キッチン南海

カツと生姜焼きとか海老フライと生姜焼きとかの合わせ技も光っています。このお店もかなり昔からある気楽に美味しい洋食を、お腹いっぱい頂くことのできる神保町・三崎町界隈の顔のようなお店だとか。

電話 03-3292-0036
住所 神田神保町1-5
定休日 日・祝
営業 [月~土]11:15~16:00
17:00~20:00



04 おしゃれなアウトドア派のカフェ BASE CAMP

アウトドアをコンセプトにしている山の中気分を楽しめるカフェ。居心地いい店内でお茶をするもよし、自家製の薫製やダッチオーブンで作った料理やおつまみで腹ごしらえもOKな素敵なお店です。

電話 03-5213-4884
住所 三崎町2-22-8 梨本ビル1F
定休日 日・祝
営業 [月~金]11:30~25:00
[土]15:00~24:00

